

1 健康寿命の延伸

- 2016年（H28）を基準とし、他の施策とともに、2040年までに健康寿命を3年以上延伸

区分	基準値 (2016年)	最新値 (2019年)	目標値 (2040年)	目標値の考え方
男性	72.63歳	73.45歳	75.63歳以上	国の循環器病対策推進基本計画による
女性	75.37歳	76.58歳	78.37歳以上	
男女計	74.02歳	75.04歳	77.02歳以上	

出典：厚生労働省「第16回健康日本21(第二次)推進専門委員会資料」
男女計については、厚生労働省「国民生活基礎調査」等により算出

※ 次回の最新値公表(2022年(R4)健康寿命)は、2024年度(R6年度)の予定

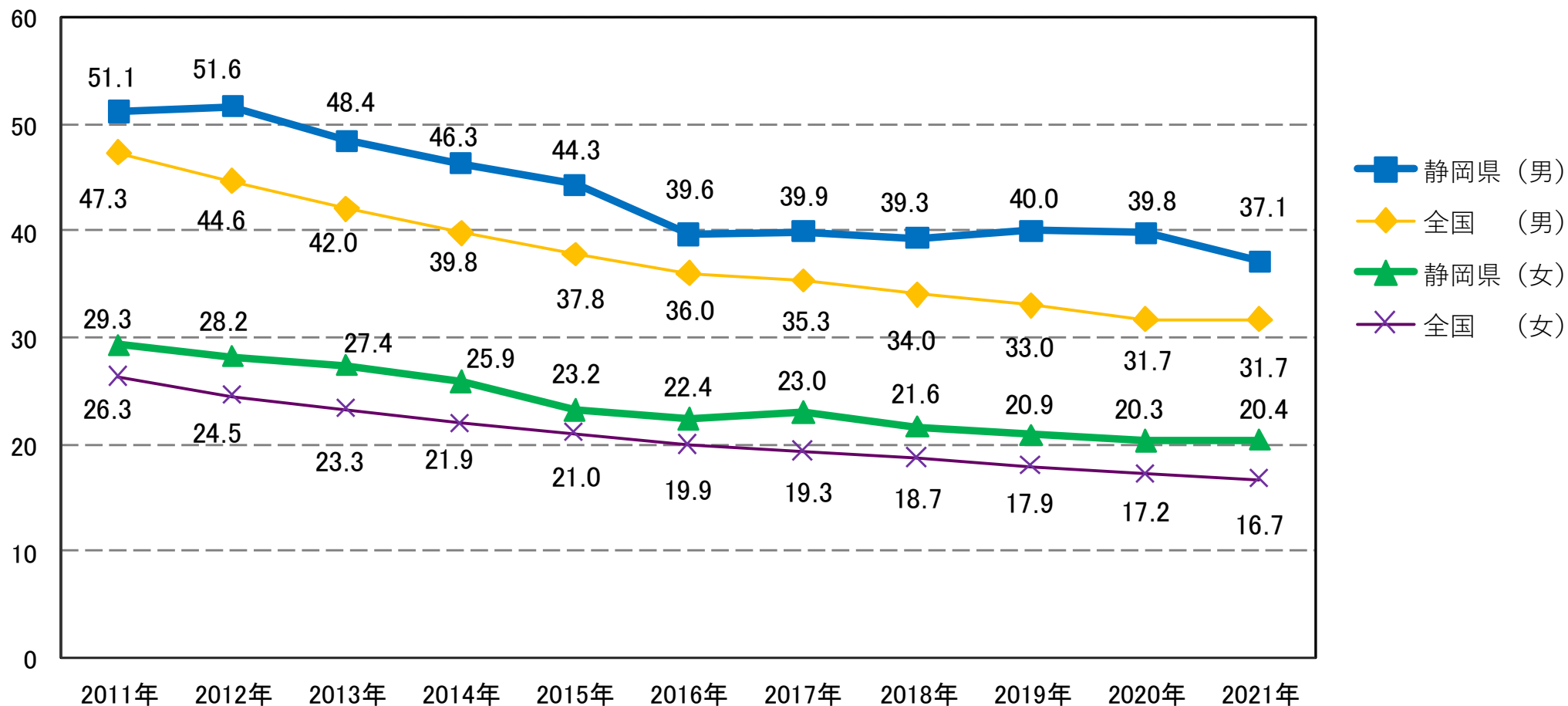
2 循環器病の年齢調整死亡率の減少

- 2018年（H30）を基準とし、循環器病の年齢調整死亡率を減少

疾患	性別	基準値 (2018年)	昨年度報告 (2020年)	最新値 (2021年)	目標値 (2023年)	目標値の 考え方
脳卒中	男性	39.3	39.8	37.1	37.8	第8次県保健医療計画の目標値
	女性	21.6	20.3	20.4	21.0	
心血管疾患	男性	59.6	59.4	58.6	改善	国の循環器病対策推進基本計画による
	女性	28.6	27.8	28.0	改善	

静岡県循環器病対策推進計画の進捗状況 全体目標

○ 年齢調整死亡率(人口10万人対)の推移 (脳卒中)

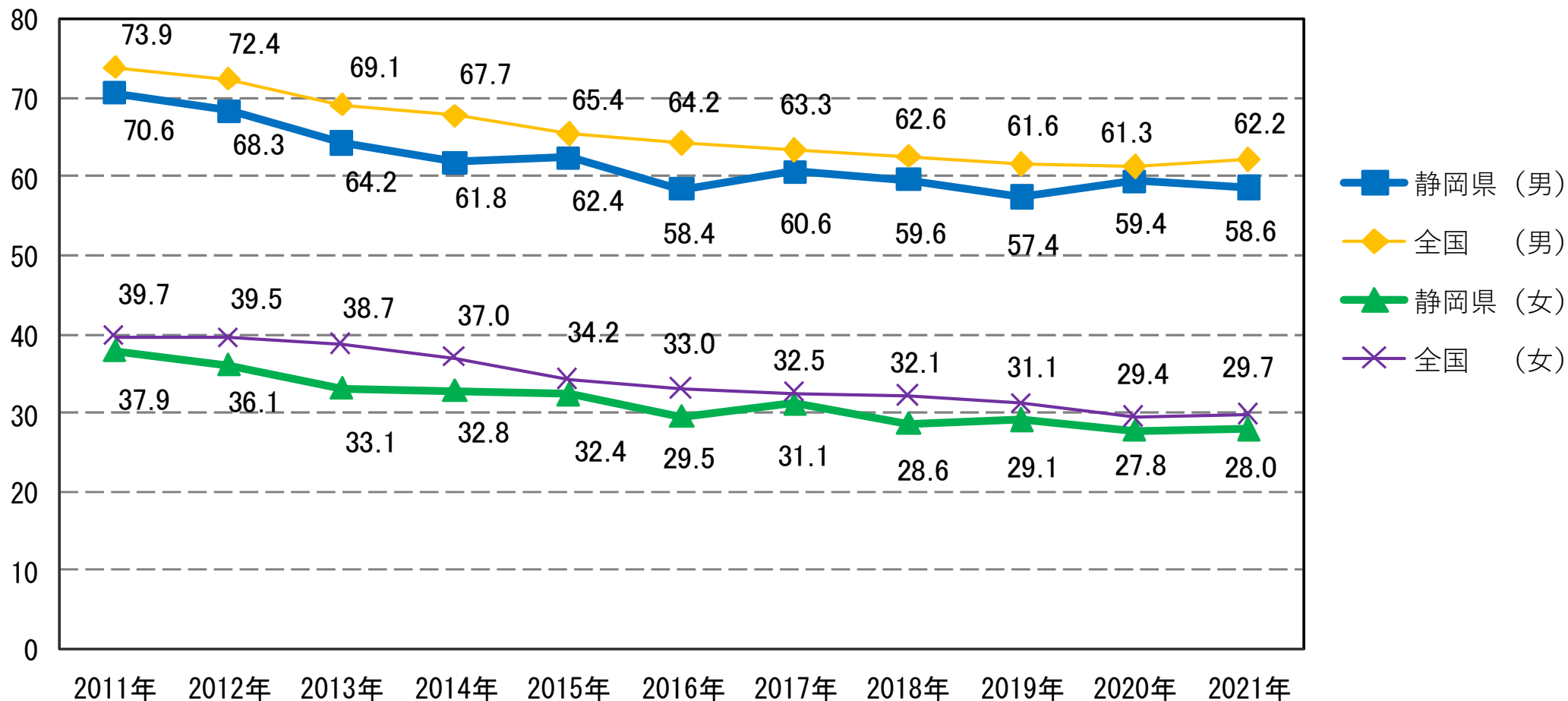


出典:厚生労働省「人口動態統計」より算出

脳卒中の年齢調整死亡率は、減少傾向を示しているものの、全国と比較し男女とも高い。

静岡県循環器病対策推進計画の進捗状況 全体目標

○ 年齢調整死亡率(人口10万人対)の推移 (心血管疾患)(大動脈瘤及び解離を除く)



出典:厚生労働省「人口動態統計」より算出

心血管疾患の年齢調整死亡率は、減少傾向を示しており、全国と比較し、男女とも低い。

<主要課題>

<p>1 救急搬送</p>	<ul style="list-style-type: none">・<u>発症→救急搬送→専門的治療開始</u>を速やかに行うことが重要・<u>地域ごと</u>に異なる対応が必要
<p>2 医療連携</p>	<ul style="list-style-type: none">・<u>専門的治療→専門的リハビリテーション→維持期</u>の連携体制構築が重要・「心不全手帳」などにより、<u>かかりつけ医</u>（専門医以外を含む）が患者を安心して診療することができる体制が必要

< 施策の方向性 >

○患者、家族への適切な情報提供

○二次予防に重要な脂質異常症をはじめとする生活習慣病の厳格な管理

⇒ ①これらの役割を主に担うかかりつけ医等を対象とした研修会等を行う

②複数の医療機関等の連携に「心不全手帳」などを活用する

①これらの役割を主に担うかかりつけ医等を対象とした
研修会等を行う

内容	循環器病医療に係る最新の知見及び事例紹介等
回数	6回開催(脳卒中・心血管疾患×3地域)
講師	各地域の専門の医師(部会委員等)
対象	各地域のかかりつけ医、看護師、 その他医療従事者

②複数の医療機関等の連携に「心不全手帳」などを活用する

内容	心不全手帳等の配布
方法	県で印刷し、急性期病院等で配布
対象	急性期病院→リハビリテーション病院→ 維持期(在宅等)が見込める患者
目標	導入1年後の再入院率20%未満 東中西の協力病院(各数百冊/年)

<研修会等の開催>

- ・計画初年度であり、医療関係者等に対し計画を周知する必要がある。
- ・県医師会が開催する会議及び研修会等の地域のかかりつけ医が集会する場で、行政側から県循環器病対策推進計画の説明を行った。

令和4年7月28日(木)	県医師会公衆衛生部会打合会
9月17日(土)	感染症医療関係者研修会
10月20日(木)	郡市医師会長協議会
11月5日(土)	がん検診医師研修会
12月17日(土)	<u>循環器病対策に係る研修会</u> 郡市医師会担当理事連絡会
令和5年2月9日(木)	県医師会救急災害医療対策委員会

静岡県循環器病対策推進計画の進捗状況 研修会等の開催

○循環器病対策に係る研修会

1 開催日時

令和4年12月17日(土)15時～17時30分

2 テーマ

県循環器病対策推進計画に基づく「脳卒中」、「心血管疾患」に係るかかりつけ医と専門病院の連携

3 内容

行政説明	県循環器病対策推進計画の概要(県疾病対策課)
脳卒中	<演題> ～脳卒中の最新治療と病診・病病連携の実際～ <講師> 順天堂大学医学部附属静岡病院 脳神経外科 教授 山本 拓史 先生
心血管疾患	<演題> ～本邦の心不全診療の現状と心不全診療における地域連携の課題～ <講師> 浜松医科大学内科学第三講座 教授 前川 裕一郎 先生

<心不全手帳の活用>

- ・急性期病院のうち、東部2病院、中部1病院、西部5病院（計2,400部）に配布し、生活習慣病の管理手段・医療連携パスとしての利活用及び本手帳導入1年後の患者の再入院率の算出について依頼

地区	医療機関名等
東部	順天堂大学医学部附属静岡病院
	静岡医療センター
中部	静岡市立静岡病院
	（静岡市静岡医師会）
西部	浜松医科大学医学部附属病院
	浜松医療センター
	聖隷浜松病院
	浜松赤十字病院
	磐田市立総合病院

※上記施設以外に、県医師会、県病院協会、各市町等の関係機関に送付済